

年間第2主日

ヨハネ 1・35-42

2024.1.14 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、ヨハネによる福音が語る、最初の弟子たちがイエス様に出会っていき、その場面です。他の3つの福音書とはちょっと違って^{ほか}います。

ヨハネの福音書では、最初に洗礼者ヨハネがイエス様を指し示し、そして洗礼者ヨハネに教えられた二人の弟子がイエス様について行って、出会う。そういう流れになっています。そしてそれだけではなくて、今度イエス様に出会った弟子が——今日はアンデレが、その兄弟であるシモン——後にペトロと呼ばれるシモンをイエス様のところに連れて来たという、そういう人と人との繋がりを通して人々がイエス様に出会っていくということをヨハネの福音書は強調しています。

しかし、それは人間の業ではなくて、神様の直接の恵みが働いているっていうことを、他の^{ほか}マタイ、マルコ、ルカの3つの福音書は、弟子たちが働いていたところにイエス様がやって来て、急に呼ばれて、急に従って行きましたという、そういうふうな角度で述べる。実際にどっちがあったんですか、出来事はどっちがほんただったんですかっていうことを、わたしたちは問うことは出来ません。

イエス様に出会うっていうのはどういうことかっていうのを、それぞれの福音書が、出来事として語りつつ、二つの側面を言い表しています。それは、イエス様との出会いっていうのは神様から直接いただいた恵みである、と同時に、神様は人と人との繋がりを用いてご自分の元にみんなを集められるというか、むしろ人と人との繋がってイエス様の所に行くことそのものが、繋がっているということ自体が、既に恵みが始まっていることのあるしななんだっていうことです。それが今日のヨハネの福音書が強調したい、そういう弟子たちとイエス様の出会いの場面ということだと思います。

わたしたちカトリック教会は、一人一人のイエス様とのつながりをいろんな方が助けてくださるっていうことを特に思い起こします。一番はマリア様。マリア様がわたしたちの取り次ぎをしてくださる方である。また、聖人たちもそうです。そし

て、教会そのものっていうのも、たまたま神様を信じる人たちがおんなじように聖書を学ぶことができるように一緒に集まっているというのではなくて、ここに呼び集められているということの中に神様の恵みが働いている、神様がお集めになった一つの民なんだっていうふうに信じるわけです。

決して、神様が、教会がなくして、マリア様を抜きに、天使や聖人たちを抜きにして、直接わたしたちに恵みをお与えになることができないというわけではない。しかし、神様はその恵みを、時代も超えて人と人が、また同じ時代を生きる者同士が繋がることを通して、ご自分のところにみんながやって来る、出会うことを望んでいらっしゃる。その救いの協力者あるいは伝達者として一人ひとりが繋がっていきっていくことが救いそのものだし、神様の望みなわけです。人間同士がお互いバラバラであって、それぞれが満足をしていてお互いを必要としない、それが救いなんじゃない。むしろ、互いが繋がることそのものが恵みであり救いなんだということです。

だから、わたしたちが、コロナの間——今も注意しなければいけませんけれども——その繋がりそのものが喜びなんだということを確認する機会を持つことがなかなか難しかったのは、カトリック教会の信仰にとっての大きな試練でした。そういう意味では、段々にそれがまた、全く前とおんなじようにということじゃないけども、少しずついろんなことができるようになってきたということが恵みであると受け取って良いと思います。

しかし、わたしたちが忘れてはいけないのは、その真ん中にはいつもイエス様がいらっしゃるってことです。誰かが仲介してくれるから自分自身はイエス様に出会うこと、イエス様との関係を深めることを求めなくていいんだっていう、そういうことではありません。

信仰生活は、いろんな人の助けによってわたしたちはイエス様のもとに導かれると同時に、イエス様との出会いは誰か他の人に肩代わりしてもらって人の^{ふんどし}禪で相撲を取るといえることはできない。自分で出会わなければならない。いろんな人の仲介でイエス様のところに呼ばれて来た者が今度は直接イエス様と語り、そして変わっていくっていう、この福音書が語っている最初の弟子たちの様子というのは、二つの面、わたしたちはお互い同士が助け合うように神様に望まれていると同時に、

一人ひとりが直接イエス様に出会っていくように呼ばれていくってことです。これは別に相反することではありません。両方を大切に思う必要があります。

ですから、この集まりを感謝すると同時に、自分の中でイエス様との対話——今日のヨハネの福音書の中でイエス様の最初のセリフは「何を求めているのか」（ヨハネ1・38）という問いかけでした。イエス様はわたしたち一人ひとりにも「何を求めているのか」と問われます。それに対する弟子たちの答えは、質問に質問で返してきましたね、「どこにおとどまりですか」、もっと直訳すれば「どこにいらっしゃいますか」です。

「イエス様、わたしをご自分のもとに呼ばれたあなたは、わたしをどこに連れて行こうとお望みですか」、毎年毎年イエス様との関係が深まっていく、その希望を失うことなく、集められたことを感謝しながら、その真ん中にいらっしゃるイエス様に出会う恵みを願いながら、このごミサを通して恵みを頂きたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>